

地球環境と産業化研究会（SGEIS）

「資源循環推進に若者がどのように取り組むかの基礎講座」実施報告書

概 要

テ ー マ：資源循環推進に若者がどのように取り組むか

内 容：20 世紀の産業発展による大量生産・大量消費を経て、資源の枯渇や環境問題が深刻化しており、地球規模での解決策が求められています。講義では、産業発展と環境保全を両立させた資源循環型社会、すなわち、環境問題の原因となる排出物質や廃棄物を資源として再利用し、持続可能な消費と再生の循環を実現するための「兵庫県資源循環推進計画」から、目指す社会の具体的な姿とそれを見据えた施策を紹介いただくとともに、県民/国民一人ひとりの暮らしに根ざした資源循環の重点取組について言及いただいた。次いで、地域で活動する若者の取り組み事例を紹介いただき、「資源循環推進に若者がどのように取り組むか」について参加者の皆さまと考えました。

【講 義】暮らしに根ざした資源循環の取組み — 兵庫県資源循環推進計画

兵庫県環境部環境整備課資源循環班 主査 隈部康晴 氏

【発 表】若者の活動状況と今後の課題

①ペットボトルリサイクルに関する行動調査 神戸大学附属中等教育学校 辻こひな

②BamBoom

兵庫県立国際高等学校 岩崎咲、猿田愛美、田中勇大、村上真実、村上舞[※]

※当日欠席

日 時：2024 年 8 月 6 日(火)13 時 30 分～15 時 30 分

13:30～13:35 主催者挨拶・進行について

13:35～14:30 講 義（講義 40 分、質疑応答 15 分）

14:30～14:55 発表①（発表 10 分、意見交換 15 分）

14:55～15:30 発表②（発表 25 分、意見交換 10 分）

15:30 事務局連絡・終了

場 所：中央区文化センター(神戸市中央区東町 115 番地)11 階 会議室 1112

主 催：地球環境と産業化研究会

参加者：17 名、うち学生 1 名、生徒 6 名（20 名、うち学生 1 名、生徒 7 名）（ ）は参加申込者数

配布物

- 隈部康晴、『暮らしに根ざした資源循環の取組 — 兵庫県資源循環推進計画』
- 辻こひな、『ペットボトルリサイクルに関する行動調査』

- 上山美友、松尾瑠桜、岩崎咲、猿田愛美、田中勇大、村上舞、村上真実、『BamBoom』
- SGEIS 第9回基礎講座の配布資料、SGEIS 活動内容の紹介チラシなど

内 容

- 【講義】暮らしに根ざした資源循環の取組み — 兵庫県資源循環推進計画

①兵庫県資源循環推進計画について

- ・「資源循環の方向性」として、2050年頃の目指す社会（「循環経済への移行」と「カーボンニュートラル達成」、「自然との共生」を三本柱にした仕組みと、それを担う「あらゆる主体の参画と協働」）を示し、これを見据えた2030年頃の施策が示された。

- ・「廃棄物処理計画」として、廃棄物の減量や適性処理などについて、一般廃棄物と産業廃棄物の計画目標値と目標達成のための施策が示された。一人一日当たりの家庭系ごみ排出量を2020年度実績値から2030年度までに約50g減らすこと、目標達成のための「食品ロス削減」や「紙ごみ分別徹底」について強調された。

②暮らしに根ざした資源循環の取組について

- ・重点事項として、「プラスチック資源循環の推進」と「食品ロス削減対策の推進」、「サステナブルフアッションの展開」についての取組が示された。

- ・プラスチック資源循環の推進において、基本的考え方として「マテリアル・ケミカルリサイクルの優先」が重要であること、プラスチック焼却量4割削減のために県民の協力（「燃えるごみ」として捨てられているプラスチックを分別回収へ出す）が必要なことについて強調された。

- ・食品ロス削減対策の推進において、今後の方向性として「食品ロスの理解と関心を増進する教育や普及啓発」が重要であることが言及された。

- ・サステナブルフアッションの展開において、基本的な考え方として「適量発注・適量生産・適量購入・循環利用への転換」が、重点的に取り組む事項として「衣類回収システム構築・リサイクル技術の高度化」が重要であることが言及された。

質疑で3名の発言があった。「県民への周知は？」、「意識の高さや行動の改善が問題とならない、仕組みの変革が重要では？」、「分別回収で出したものがどのように処理しているのかだろうか？」などについて議論された。

- 【発表】若者の活動状況と今後の課題

①ペットボトルリサイクルに関する行動調査

「ペットボトル廃棄行動に関するアンケート調査結果」、「リサイクルや分別に関する意識がある程度備わっていることの考察」について発表いただいた。

「行動調査の方法は？」、「分別回収についての学習機会は？」、「課題研究の今後の進め方」などについて、発表者と参加者（7名からの発言があった）との間で意見交換が行われた。

②BamBoom

放置竹林の解決方法として、「竹チップを利用したバイオマス発電」と、竹チップの国産バイオマスボイラーの開発費を捻出するための「竹の繊維を利用したグッズの開発・販売」の構想について発表いただいた。

「この構想に至った経緯は？」、「バイオマス発電におけるCO₂排出についてどう考えるか？」、「竹の資源化」などについて、発表者と参加者（4名からの発言があった）との間で意見交換が行われた。



以上(世話人 土井淳 記)